

物資支援について



物資チーム
076-225-1261

物資支援の経緯

- 発災直後の1月2日に、**石川県産業展示館を県の物資拠点として開設**。
国の調達や自衛隊の輸送のもとで、**避難所や孤立集落等**に、食料・飲料など緊急性の高い物資を供給開始。
- その後、**市町からニーズを聞き取り、国・県・市町がリレーする形で、避難所等に物資を供給**する体制を構築。



- 避難所生活の長期化を踏まえ、食料・飲料の種類を充実**させるなど、被災者の状況に応じて支援を実施。

主な支援物資

食料

- ・ アルファ化米、パックご飯、弁当
- ・ 缶詰、レトルト食品、おかゆ

飲料

- ・ 水、お茶、スポーツドリンク
- ・ 野菜ジュース、乳酸菌飲料

食器類

- ・ 紙皿、紙ボウル、紙コップ
- ・ 割りばし、スプーン、フォーク

衣類

- ・ 防寒着、カイロ
- ・ シャツ、靴下、おむつ

寝具

- ・ 段ボールベッド、間仕切り
- ・ 布団、毛布、枕

**風呂トイレ
洗濯用品**

- ・ シャンプー、ボディソープ
- ・ 携帯トイレ、簡易洗濯袋

衛生用品

- ・ 歯ブラシ、うがい薬、マスク
- ・ 生理用品、洗剤

作業用品

- ・ 長靴、軍手、ロープ
- ・ ブルーシート、土のう袋

その他

- ・ 仮設トイレ、衛星通信装置
- ・ 燃料（ガソリン、灯油等）

輸送体制の構築（1月2日～）

○県の物資拠点として産業展示館を活用

- ・県職員に加え、**自衛隊、特別機動警備隊、トラック協会、民間物流業者**が物資管理・荷役・発送



○市町の物資拠点へ輸送を実施

- ・**自衛隊、トラック協会、民間物流業者等**により、市町の物資拠点へ輸送



※発災当初は、自衛隊により孤立集落へ陸海空から複合的に輸送

○システムを用いた情報連携・物資管理

- ・内閣府防災「**物資調達・輸送調整等支援システム**」を活用し、情報連携、物資を管理（システム業者が現地入りし機能を最適化）

○市町の物資拠点の体制支援

- ・市町の物資拠点では、県職員、**自衛隊、全国自治体からの対口支援者、民間物流業者**が、管理・荷役・地域内輸送（ラストワンマイル）を支援

これまでの物資支援の状況



支援実績

物資チーム
076-225-1261

○これまで、**1,300万点を超える物資を被災地に供給**（国が多くの物資を調達）

● 様々な物資の
緊急輸送に対応



段ボールベッド
(6千台以上)



ブルーシート
(6万枚以上)



仮設トイレ
(800基以上)



衛星通信装置
(600台以上)

● 避難生活の長期化を踏まえ、
食料・飲料の種類を充実



弁当



炊き出し用食材



牛乳、野菜ジュース

○**130団体以上から430万点を超える義援物資を提供**いただき、支援に活用

これまでの物資支援の状況

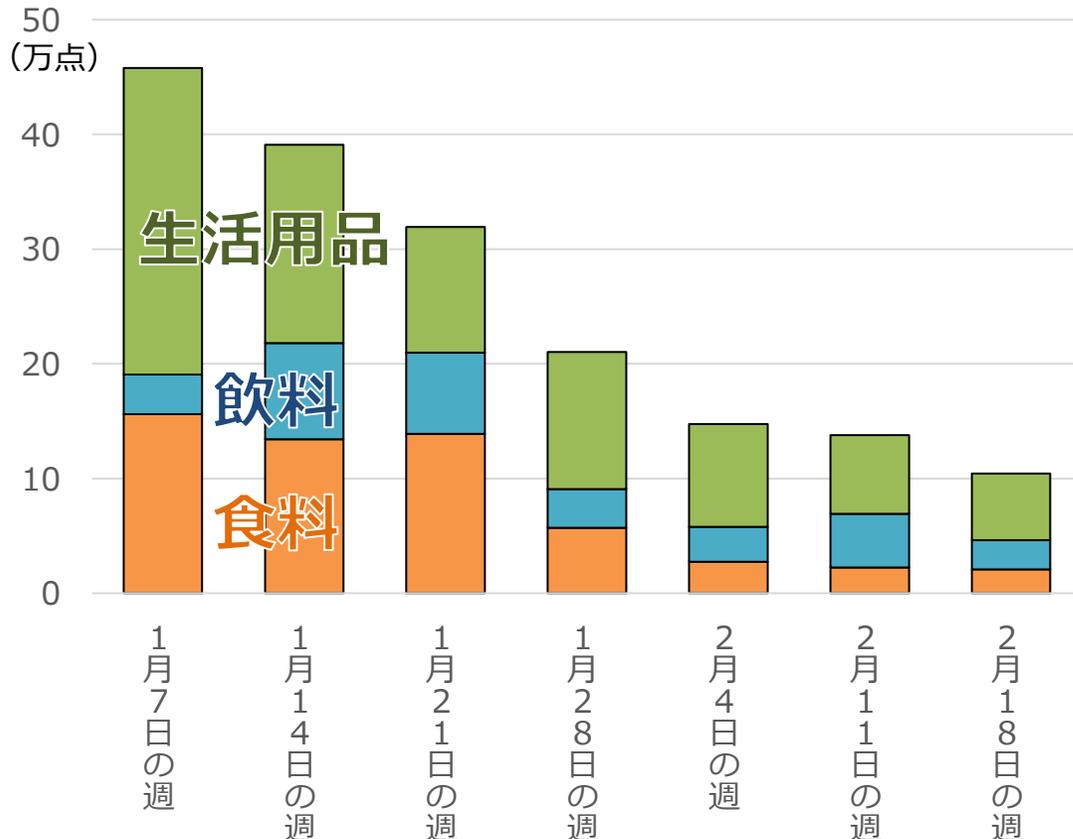


物資チーム
076-225-1261

物資支援に係る状況の変化

○市町からの物資要望数は次第に減少

市町からの1日の平均要望点数



○現地小売店舗が徐々に営業を再開

輪島市 珠洲市	建屋が使用可能な店舗は 半数以上が再開
能登町 穴水町 七尾市 志賀町	建屋が使用可能な店舗は 概ね再開



※スーパーマーケット、ドラッグストア、コンビニエンスストアについて、県及び市町にて確認。
再開には、時短営業や一部商品のみでの営業も含む。
個人商店等までを網羅的に含んだ情報ではないことに留意。

物資ニーズの多様化への配慮

- 避難生活が長期化する中で、避難者の心や体の健康を支える観点から、食事の種類を充実させていくなど、引き続き、物資ニーズの多様化に配慮していく。

物資支援と地域の商流再建との両立

- ライフラインが次第に復旧し、地元の生産者や商店等が営業を再開しはじめている中、物資支援と地域の商流再建との両立を図っていく必要がある。
- このため、地元の生産者や商店等から調達できる範囲の物資については、市町で現地調達していけるよう、調整を進めていく。（市町の調達も災害救助法の対象）

県の物資拠点の移動

- これまで、大量の物資を受け入れて荷作業を行う観点から、産業展示館3・4号館を県の物資拠点として用いてきたが、物資の量は次第に減少している状況。
- 県の物資拠点について、4月以降は民間倉庫を活用するよう調整を進めていく。